

美容技術指導における留学生のオノマトペ理解 — 美容専門学校での実習授業調査から —

瀧上 美恵子[†]

How do Students from Abroad Understand Japanese Mimetic Words Used in Technical Guidance of Cosmetology: A Survey Study of Practical Training Classes in a Cosmetology School

Mieko Fuchigami

1. はじめに

日本語学校を卒業した後、専門学校へ進学する留学生が増加している。独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の令和元年の調査によれば、約8万人近くの留学生が全国の専門学校で学んでいると報告されている。しかし、日本語で行われる授業や課題に対し、日本語力の不足や基礎的な学びの違いなどから「難しさ」を感じている留学生が多く存在する。特に「技」の伝授が必要とされる実技系の領域における専門学校では、実習授業が行われるが、その実習授業内における教員の説明の中には、日本語非母語話者にとって理解に困難な点があるのではないか。そのような考えから、美容専門学校の実習授業の中で多く使用されていると思われるオノマトペに注目した。

そこで本研究の目的は、美容専門学校の実習授業において実際に使用されているオノマトペが、留学生らにどの程度理解されているのか、またオノマトペに対する意識を調査、分析により明らかにすることである。

2. 先行研究

2.1 実技学習分野におけるオノマトペの研究

日本語はオノマトペが豊富な言語の一つであると考えられており、私たちの日常生活においてオノマトペを使用せずに過ごすことは難しいだろう。『オノマトペがあるから日本語は楽しい』の中で、小野はオノマトペを「日本語のへそ」だと例えている（小野2009）。その「日本語のへそ」的存在であるオノマトペに関する研究は、近年大きく進み、オノマトペが果たす役割や、さまざまな効果などが多くの研究者の努力により徐々に明らかになってきた。

2.1.1 スポーツオノマトペ

スポーツオノマトペとは、トレーニングや試合中などに運動感覚を表現する際、選手やコーチらが日常的に利用しているオノマトペのことを示す。藤野（2008）は、運動やパフォーマンスに対し、①パワー、スピード、②リズム、タイミング、③リラックス、④モチベーション、⑤威嚇・挑発などの点で、スポーツオノマトペを使用することが、効果的であると述べている。

だが、この点に関して吉川（2013）は、大学生のアスリートを対象としたアンケート調査を実施し、スポーツオノマトペをスポーツ指導で用いることによる長所と短所を以下のようにまとめた。長所は、①微妙な動作に関する内容やニュアンスを簡単に表現できる、②スポーツオノマトペを使用した指導内容は印象に残りやすい、③複雑な運動の内容をスポーツオノマトペに置き換えることで効果が上がる、④動きのリズムや筋力の発揮がしやすくなる、⑤スポーツオノマトペを使用した運動は説明がわかりやすく興味がわく、などの効果があるが、同時に短所として、①知りたい動作内容の表現があいまいで分かりにくい、②具体的な内容がうまく理解できなくなる、③稚拙なイメージをもたれることもあり、使用の際に抵抗感がある、④何をいっているか時折わからなくなる、などのマイナスな点も存在していることを指摘した。この点に関し吉川は、「アスリートや指導者の中では有効性と利便性を評価している人と、曖昧性と理解困難性を指摘している人がいる」と述べている。さらに「オノマトペ表現を受け止める運動者が、表現された感覚印象体験や体験に基づくイメージの想起やオノマトペ表現の日常経験がないと、オノマトペ表現の感覚的印象の了解と動作への活用が難しい」とも言及している。

これは、それぞれの日本語オノマトペ語彙が内包するイ

[†]2021年度修了（人文学プログラム）、現所属：岩谷学園テクノビジネス横浜保育専門学校

美容技術指導における留学生のオノマトペ理解
— 美容専門学校での実習授業調査から —

メージに対し、指導者とアスリートの間で互いに共通する部分を持ち合わせていなければ、スポーツオノマトペのもつ長所を享受できないと考えられる。日本語母語話者間であっても地域や経験、年齢などの違いなどから、必ずしもオノマトペ表現に対し、共通するイメージがあるとは限らない。留学生の多くは日本語のオノマトペ表現を日常的に経験していないケースが多いため、スポーツオノマトペに対する理解は困難であることが予想される。

2.1.2 介護オノマトペ

介護の現場では、円滑にコミュニケーションを図るためオノマトペが多くある場面、便利に使用されているようである。介護現場で仕事をする中で、日本語に対しての理解が深まり、自然に習得する日本語も多くあるだろう。

神村(2017)は、EPA候補者や既に介護職に就いている外国人介護従事者へのヒアリングを行い、介護現場でよく使用されているオノマトペの習得状況の調査を行った。その結果「場面・動作依存」タイプのオノマトペは自然習得し得る可能性があるが、「使用・使途依存」タイプのオノマトペは、あいまいな理解にとどまり自然習得だけでは習得できないと主張している。さらに神村(2019)は、モンゴル語・インドネシア語母語話者が、「痛みのオノマトペ」をどのように捉えているのかという調査も行い、得られた結果から超級日本語学習者であったとしても、オノマトペ理解に関しては、理解をするには限界があることを指摘している。

2.2 医療・介護現場における方言オノマトペ

オノマトペも地域により大きな違いがある。日本語母語話者でも理解できない「方言オノマトペ」と称されるオノマトペも存在する。東日本大震災の際、多くの他地域出身の医療従事者が現地入りし被災地の医療に携わった。その際に、その地域の方言及び「方言オノマトペ」を使用して伝えられた被災した人々の「痛み」や「不調」そして「体の部位」などが、他地域から応援にきた医療従事者らには、理解されず互いの意思疎通に大きな困難が生じてしまった。

そこで、東北地方で使用されている方言オノマトペを理解する時に何か手助けになるものが欲しいという呼びかけ(今村2011)により、国立国語研究所は『東北方言オノマトペ用例集』を作成した。この用例集には多くの語彙や用例が紹介されており、イラストなども使用しながら、わかりやすくまとめられている。

3. 研究目的と課題

本研究の目的は、美容学校の実習授業内で使用されているオノマトペの使用状況及びその理解度や意識を明らかにすることであり、以下の点を研究課題とした。

課題1) 実技授業内で実際に使用されているオノマトペ

語彙と、それらの使用場面はどこにあるのか。課題2) 実習授業内で使用されているオノマトペ表現を留学生はどの程度理解しているのか。課題3) オノマトペに対し、留学生や日本語非母語話者はどのような意識を抱えているのか。

これらの点を明らかにするため調査を行い、その結果を分析、考察を行う。

4. 調査

4.1 予備調査

美容学校で実習授業を担当している教員5名に対して予備調査を実施した。留学生に美容技術を教える際の留意点や、配慮することなどを問う内容の質問紙を作成し、自由回答形式で回答を求めた。また、一部聞き取りも行った。

結果を見ると、どの教員も何らかの「難しさ」を感じていることがわかった。それらの「難しさ」は、「日本語によるコミュニケーションに起因する難しさ」と「異文化理解に起因される難しさ」の2つに分類することができた。また、共通するキーワードとして「ニュアンス」、「微妙な」という語彙が、すべての教員の回答から抽出された。

4.2 授業見学

美容専門学校で行われた「ヘアブリーチ」と「メイク」の実習授業を各2回見学した。そして実際に授業内で使用されていたオノマトペを抽出した。

「ヘアブリーチ」の授業は、違う教員によって行われた同じ内容の授業を見学した。「メイク」の授業は、違う教員によって行われた、内容の異なる授業を見学した。次に、実習授業を行った4人の教員から実習授業で教える際に、留意する点や留学生に教えた経験などについての聞き取りを行った。そして、実習授業を受講していた中国人留学生に授業後に簡単な聞き取りを行い、授業全般に関する感想や、オノマトペに対して抱えている意識などを聞くことができた。

4.3 授業見学の結果と考察

授業内容や美容学校の教員が使用していた表現には大きな違いがあるものの、大まかな流れは全体を通して共通していた。全体的な授業の流れとそれぞれの過程において多く使用されていた表現について、図1にまとめた。

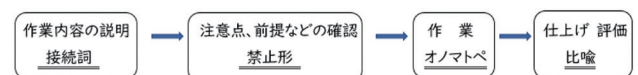


図1 作業工程の流れ

教員からの説明や作業上の注意点が終わり、生徒がそれぞれの作業工程に入ると、教員の発話量は減るもののオノ

美容技術指導における留学生のオノマトペ理解
— 美容専門学校での実習授業調査から —

マトペが多く使用されるようになった。全体的な発話が減る中でオノマトペが使用されているのは、聞いていて際立った印象を受けた。そして最後の仕上げや評価の段階では、比喩表現が多く使用されていた。このことから、日本語非母語話者にとって作業を学ぶだけでなく、仕上げや評価に関してもオノマトペや比喩表現が理解できない場合、技術全体の理解の上で何らかの困難点があることが予想される。

授業後、受講していた中国人留学生に対し授業についての聞き取りを行ったところ、教員の説明が時折よくわからないようだった。そして、オノマトペに関する質問をすると、苦手意識が強く日本語学校では教わった経験がないので、よくわからないと話していた。しかし、学校の教員やクラスメートが日常よく使っているので、知りたいという意識があることも聞き取りから確認できた。

4.4 本調査

今回の調査における対象者は、日本語非母語話者74名であり、多くは日本語学校か専門学校に在籍する留学生であるが、社会人も5名含まれている。専門学校はビジネス系専門学校で学ぶ留学生が対象である。日本語レベルはN1からN4で、国籍は8カ国である。年代別で見ると、20代が一番多い。

その他の詳細については、以下の表1にまとめた。

表1 被験者内訳

人数	全体 74名	男性 32名	女性 42名		
日本語学校生	全体 13名	男性 9名	女性 4名		
専門学校生	全体 56名	男性 23名	女性 33名		
社会人	全体 5名	男性 0名	女性 5名		
日本語力	N4 1名	N3 21名	N2 43名	N1 9名	
国籍	ベトナム32名	中国 18名	ネパール11名	ミャンマー5名	
	モコノ5名	スリランカ1名	インドネシア7名	カライ1名	
年齢	10代 3名	20代64名	30代 4名	40代1名	不明 1名

4.4.1 調査方法

実技指導におけるオノマトペの理解度を問う質問紙を作成し、日本語学校及び専門学校において、2020年9月に実施した。社会人に対しては同期間に個別で調査を行った。数名の回答者には、聞き取りを行うことができた。

調査語彙は、実際に見学した実習授業の作業段階において、教員らに多く使用されていたオノマトペの中で10の語彙を抽出し、調査対象語彙と定めた。

調査対象語彙は、＜動作＞について説明する語彙、「ギュッ」「ゴシゴシ」「グイッ」「トントン」「パパッ」、＜形＞を説明する語彙、「フワッ」「チリチリ」、＜状態＞を説明する語彙、「サラサラ」「モワッ」「ベタベタ」の10である。

以下の表2は、質問用紙における質問文や観点などをまとめたものである。

表2 質問用紙の概要

質問文	調査語彙	選択肢	意味分類	問いの観点
①洗ったスポンジをギュッと絞ります。	ギュッ	a ゆっくり力を入れて b ゆっくり力を入れないで c 素早く力を入れて d 素早く力を入れないで	動作	強さ 速さ
②タオルで髪の毛をゴシゴシしないでください。	ゴシゴシ	a 強くこするように b 強く叩くように c やさしくこするように d やさしく叩くように	動作	動作連続有無 強さ
③ドライヤーを使って、髪をフワッとさせます。	フワッ	a 軽そうに丸く b 軽そうにまっすぐに c 重たそうに丸く d 重たそうにまっすぐに	形	形 重さ
④髪の毛の根元にグイッとブラシを入れます。	グイッ	a 強く力を入れて b 強く力を入れないで c 軽く力を入れて d 軽く力を入れないで	動作	強さ 重さ
⑤長くアイロンをしていると髪がチリチリになります。	チリチリ	a かたくまっすぐに b かたくねじれたように c やわらかくまっすぐに d やわらかくねじれたように	形	形 硬さ
⑥肌をサラサラにしてからメイクをはじめます。	サラサラ	a かたく滑らかな感じ b かたく粗い感じ c やわらかく滑らかな感じ d やわらかく粗い感じ	状態	滑らかさ 硬さ
⑦たくさんアイシャドウをつけると、目がモワッとします。	モワッ	a 明るく重たい感じ b 明るく軽い感じ c 暗く重たい感じ d 暗く軽い感じ	状態	明るさ 重さ
⑧コットンを使って、肌をトントンします	トントン	a やさしく繰り返して b やさしく全体を押すように c 強く繰り返して d 強く全体を押すように	動作	動作連続有無 強さ
⑨同じ場所にクリームをたくさん塗ると肌がベタベタします。	ベタベタ	a 湿って気持ちが良い b 湿って気持ちが悪い c 乾いて気持ちが良い d 乾いて気持ちが悪い	状態	快不快 湿度
⑩メイクの最後に余分なパウダーを太めのブラシでパパッと落とします。	パパッ	a 軽めに少し b 軽めにたくさん c 重めに少し d 重めにたくさん	動作	影響される量 軽さ

4.4.2 質問用紙の構成

実技系の技術を学ぶ際は、求められる動きの早さや対象とする物の形、状態などをどのように捉えるかが、学びのポイントとなる。だからこそ美容教員らは、学生に対して「わかりやすい」と認識しているオノマトペを使用し、一般的に「コツ」と称されているような技術を、オノマトペを使用して説明したと考えられる。しかし、オノマトペは日本語母語話者にとってはわかりやすい表現であったとしても、日本語非母語話者に対しても同じように、「わかりやすい」存在であるのだろうか。

そこで、個々のオノマトペ語彙に対する理解度を分析するために、観点を絞った質問文と選択肢を作成することにした。対象とした＜動作＞＜形＞＜状態＞を説明するオノマトペ語彙に対し、それぞれ着目した観点は、以下のようによにまとめられる。

＜動作＞... 「強弱」、「連続性の有無」、「重さと軽さ」、「影響される量」、「速さ」

＜形＞... 「形」、「重さ」、「硬さ」

＜状態＞... 「滑らかさ」、「硬さ」、「明るさ」、「重さ」、「快不快」、「湿度」

美容技術指導における留学生のオノマトペ理解
— 美容専門学校での実習授業調査から —

そして、質問文に対する正解率から被験者らのオノマトペ理解度を観察した。

5. 結果と考察

5.1 量的調査の結果と考察

5.1.1 全体の正解率

調査を行った10のオノマトペ語彙に対する正解率を図2に示した。

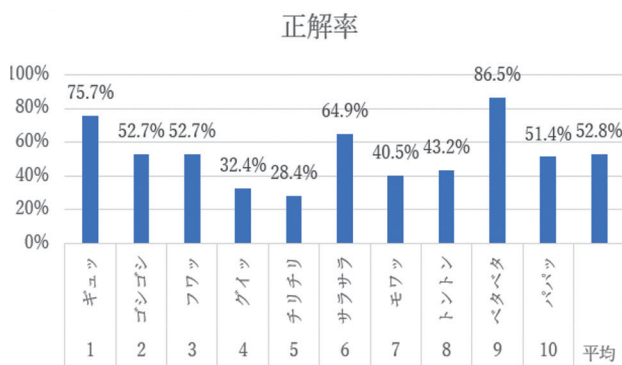


図2 全体の正解率

最も正解が高かったのは「ベタベタ」の86.5%であり、逆に最も低かったのは「チリチリ」の28.4%であった。そして、今回の調査における全体の平均正解率を見ると52.8%で、約半数にとどまっている。

この結果から、オノマトペを理解することは日本語非母語話者にとって、難しいことが窺われる。

5.1.2 日本語能力別理解度

今回の被験者である日本語学校生らの日本語能力はN3レベルで、調査を行った時点では、JLPT N2受験準備クラスで学習していた。専門学校生の日本語能力はN1からN3のレベルに属しており、週に3日程度日本語の授業を受講している。社会人は、N1もしくはN4レベルとなっている。

日本語能力別の結果とその詳細について、以下の表にまとめた。

表3 日本語能力別正解率とその内訳

	N1	N2	N3	N4
人数	9名	43名	21名	1名
男女比	男性 (2) 女性 (6)	男性 (18) 女性 (25)	男性 (12) 女性 (9)	男性 (0) 女性 (1)
正解率	77.8%	58.8%	32.9%	10.0%
日本滞在年数	5.0年	2.7年	2.2年	7年

今回の調査においては、滞在年数が伸びると日本語能力も上がり、正解率も高くなる。例外的なのは、N4レベルの被験者である。この被験者は、英語を使用して日常生活しているため、日本語を使用する機会はほとんど無い。

日本語能力の違いによる理解度を調査した結果から、カイ二乗検定と残差分析を行い、レベル別理解度の差異を詳しく分析した。結果は以下の通り。

表4 日本語能力別理解度の実測値とカイ二乗検定・残差分析結果

	N3以下	N2	N1
正解数	68▽	252▲	68▲
不正解数	152▲	178▽	22▽

$$(\chi^2(2) = 66.725, p < .01)$$

誤差1%水準で、N3以下では有意に不正解が多く、N1, N2では有意に正解が多いという結果になった。この結果からはオノマトペの理解度と日本語能力におけるレベル差との間に有意な相関が見られた。

5.1.3 所属の違いによる理解度

日本語学校生と専門学校生の理解度を比較すると、専門学校生の方が高い結果が得られた。また、自由回答欄に注目し比較をすると、専門学校生はさまざまなコメントを記しているが、日本語学校生のコメントは少ないことがわかった。

そこで、所属別理解度の差異を分析するため統計処理を行った。その結果は以下の通りである。

表5 所属の違いによる理解度の実測値とカイ二乗検定・残差分析結果

	日本語学校	専門学校
正解数	47▽	308▲
不正解数	83▲	252▽

$$(\chi^2(2) = 14.257, p < .01)$$

誤差1%水準で、日本語学校生は有意に不正解が多く、専門学校留学生は、有意に正解が多いという結果だった。この結果からは、オノマトペの理解度と所属の違いとの間に、相関があるように見られる。しかしながら、この結果は単に日本語力の反映によるものであろう。

仮にN3レベルで日本語学校を卒業し、準備学習など受けずに実習授業を行う専門学校に進学した留学生は、習得を希望している技術を学ぶ際、理解の点で何らかの難しさを抱える可能性が高いことが、この結果から予想される。

5.1.4 語形の違いによる理解度

調査対象としたオノマトペ語彙10を語形的観点から分類を行いその差異を分析した。分類方法は調査語彙を単語のオノマトペ語彙に属するグループと、促音を伴うオノマトペ語彙に属するグループに分類し、それぞれの正解率を調査した。単語オノマトペをCVCV、促音を伴うオノマトペをCVQと表示した。

その分類方法における語彙群とその結果については、以下の通り。

表6 語形の違いによる正解率とその内訳

【分類】	【対象語彙】	【正解率】	【平均】
CVCV	ゴシゴシ	52.7%	55.1%
	チリチリ	28.4%	
	サラサラ	64.9%	
	トントン	43.2%	
CVQ	ベタベタ	86.5%	50.5%
	ギュッ	75.7%	
	フワッ	52.7%	
	グイッ	32.4%	
	モワッ	40.5%	
	パパッ	51.4%	

この分類による正解率に大きな違いは認められず、同程度に見られる。そこで、さらに統計処理を行った。

結果は以下の通りである。

表7 語形の違いによる理解度の実測値とカイ二乗検定・残差分析結果

	CVQ	CVCV
正解数	187	204
不正解数	183	166

$$(\chi^2(1) = 1.388, ns)$$

分析の結果からは、有意な差は見られず、オノマトペの理解度と語形の違いとの間には、相関は確認できなかった。

5.1.5 意味的内容の違いによる理解度

次に調査語彙を意味的内容の観点から「動作」、「状態」、「形」と分類し、その差異を分析した。

意味的内容の違いにより分類された語彙群とその結果については、以下の通り。

表8 意味的内容の違いによる正解率とその内訳

【分類】	【対象語彙】	【正解率】	【平均】
動作	ギュッ	75.7%	51.1%
	ゴシゴシ	52.7%	
	グイッ	32.4%	
	トントン	43.2%	
	パパッ	51.4%	
状態	サラサラ	64.9%	64.0%
	モワッ	40.5%	
	ベタベタ	86.5%	
形	フワッ	52.7%	44.6%
	チリチリ	28.4%	

「状態」のオノマトペの成果率が高く、次に「動作」で、「形」が最も低いという結果だった。そして統計処理を行った。その結果は以下の通りである。

表9 意味的内容の違いによる理解度の実測値とカイ二乗検定・残差分析結果

	状態	形	動作
正解数	142▲	60▽	189
不正解数	80▽	88▲	181

$$(\chi^2(2) = 20.468, p < .01)$$

誤差1%水準で、「状態」を意味するオノマトペの正解が有意に多く、「形」を意味するオノマトペの正解が有意に少ないことが分かる。「動作」については、有意な相関が見られなかった。

ただし、意味的内容によってカテゴリー分けされた語彙数が、それぞれ同数でないこと、また調査としては十分な語彙量とは言えないことなどから、意味の違いによる影響を知るには、今後さらに調査語彙を増やし、カテゴリー内の数を同数に定めるなど、より本格的な調査が必要である。

5.1.6 音声の違いによる理解度

調査対象のオノマトペ語彙を音声の観点から、分類を行いその差異を分析した。分類方法は、調査対象のオノマトペを構成する子音の部分に着目し、それらを有声音と無声音に属するグループに分類した。有声音、無声音それぞれの正解率を調査し、分析した。

その分類方法における語彙群とその結果については、以下の通りである。

表10 音声の違いによる正解率とその内訳

【分類】	【対象語彙】	【正解率】	【平均】
有声音	ギュッ	75.5%	57.6%
	ゴシゴシ	52.7%	
	グイッ	32.4%	
	モワッ	40.5%	
	ベタベタ	86.5%	
無声音	フワッ	52.7%	48.1%
	チリチリ	28.4%	
	サラサラ	64.9%	
	トントン	43.2%	
	パパッ	51.4%	

結果は有声音オノマトペの正解率が高く、理解度が高いように見える。有声音を含むオノマトペは、日本語非母語話者にとって比較的聞き取りがしやすく、無声音は聞き取りが難しいのかもしれない。しかし、「ベタベタ」の正解率が高いことによる影響で、有声音における全体の正解率が引き上げられたことも考えられる。

統計処理を行った結果は以下の通り。

表11 音声の違いによる理解度の実測値とカイ二乗検定・残差分析結果

	有声音	無声音
正解数	213▲	178▽
不正解数	157▽	192▲

$$(\chi^2(1) = 6.269, p < .01)$$

誤差1%水準で、有声音では正解が有意に多く、不正解が有意に少ない。一方、無声音では不正解が有意に多く、正解が有意に少ない。この結果からは、オノマトペの理解度と音声の違いとの間に、有意な相関が見られた。

5.2 量的調査のまとめ

オノマトペの理解には、どのような要因が関係しているかをいくつかの観点から考察を重ねたが、今回調査したオノマトペ語彙は10語のみを対象とするもので、包括的な調査を行ったとは言えない。その点に留意した上で、わかったことをまとめる。

私たち日本語母語話者が、毎日多くの場面で便利に使用している「日本語のへそ」的存在であるオノマトペは、日本語非母語話者にとって、理解や習得することが難しく「わかりにくい」存在である。しかし、日本語能力が上がれば、オノマトペの理解度も向上することを限定的ではあるが、今回の調査で確認することができた。

5.3 質的調査の結果と考察

質問用紙に設けられた自由回答欄からは、いくつかのコメントが得られた。レベル別にみると、N2以上の被験者からのコメントが多く、それ以下のレベルになるとコメント数は少なくなった。

自由回答欄から多く抽出された語彙の「面白い」、「難しい」、「わからない」、「勉強したい」をキーワードとして分類を行った。次に4つのキーワードと意味的につながりが持てる語彙「理解」、「興味」を上位の Kategorie と定め、上述の4つのキーワードを、下位の Kategorie として分類した。その分類と代表的なコメントを以下の表にまとめた。

表 12 代表的なコメントとその分類

理解	難しい	<ul style="list-style-type: none"> オノマトペは難しい 教科書もない。学校で教えてもらえないし、難しい 母国語に変えるのが難しい 面白いが、難しい(混合タイプ)
	わからない	<ul style="list-style-type: none"> 病院で聞くがわからない 全然わからなかった 上手に使えない。気持ちのものはわからない。 イメージできない、苦手だと思うから
興味	面白い	<ul style="list-style-type: none"> オノマトペは面白い。短く表現できる 面白いと思う。 日本人の友達からよく聞くオノマトペは面白い 面白いけど覚えにくい(混合タイプ)
	勉強したい	<ul style="list-style-type: none"> 興味持った。もっと勉強したいと思う 学校で学びたいと思う 学校で専門的に勉強したい アルバイト先で使うから正しく知りたい

5.3.1 オノマトペに対する理解

自由回答欄に記されていたコメントの中で「難しい」は多く抽出されたキーワードの一つであった。「難しい」理由として、代表的なコメントは「母語にない」、「学校で教えてもらえない」、「(オノマトペの)本がない」、「イメージができない」などである。しかし、最も多かったのは、「難しいが、面白い」といった否定的な意識と肯定的な意識が示唆されるコメントであった。

このような「混合タイプ」のコメントからは、難しいけれどもオノマトペに対して、興味があるといった被験者の心理を窺うことができる。次に「わからない」も多く抽出され、N3レベルの被験者からの回答が多かった。また「難しい」に対する回答には、複数の理由があったが「わからない」理由は、「日本語を使わないから」だけであった。

5.3.2 オノマトペに対する興味

「面白い」についても自由回答欄に多く記されていた。「面白い」理由としては、「アニメでよく使われている」、「日本人の友達からよく聞く」、「短く表現できる」などが記されていた。また、「勉強したい」も多く回答されており、「学校で勉強したい」や「先生に教えてもらいたい」といった内容だった。その理由としては、「日本語上達のため」、「アルバイト先で日本人がよく使っているから」、「生活の中でよく聞くから」などといった理由が多く、日常生活の中でオノマトペを聞いても意味がわからず、困惑した経験を持つ被験者が多いことも考えられる。日本語非母語話者がオノマトペ学習の必要性を感じていること、そしてオノマトペ学習に対するニーズがあることがわかった。

5.3.3 全体のコメント数と考察

Kategorie を構成するために使用したキーワードの「難しい」、「わからない」、「面白い」、「勉強したい」に属するコメント数をそれぞれカウントした。その内訳と結果は以下の通りである。

表 13 コメント総数数による分類

	キーワード	コメント数	合計
理解	難しい	15	27
	わからない	12	
興味	面白い	11	28
	勉強したい	17	

上位カテゴリー数がほぼ同じ結果であった。この結果からは、オノマトペに対して「難しい、わからない」という否定的な意識と「面白い、勉強したい」という肯定的な意識が、拮抗していることがわかる。

5.4 質的調査のまとめ

自由回答欄に記されたコメントを基本とし、いくつかの観点に分類して考察を行った。その結果、オノマトペに対して「難しい、わからない」という否定的な意識と「面白い、勉強したい」という肯定的な意識が、被験者の中で拮抗していることが考えられる。また、追加的に数名に対して実施した聞き取りからは、「オノマトペに興味がある。勉強したい」などのオノマトペ学習に対するニーズも確認することができた。

6. 総合的考察

本研究では、課題1) 実技授業内で実際に使用されているオノマトペ語彙とその使用場面はどこか、課題2) 実習授業内で使用されているオノマトペ表現を留学生はどの程度理解しているか、課題3) オノマトペに対し、留学生や日本語非母語話者はどのような意識を抱えているのか、これらの課題を探ることであった。

その結果、課題1では実際に美容専門学校におけるへ

ア、メイクの実習授業を見学し、授業内で使用されていたオノマトペに注目したところ、作業工程に入ると美容教員の発話におけるオノマトペの使用量が増えることを確認した。美容教員の発話が全体的に減る中で、オノマトペ使用が増えるので、際立った印象を受けた。

課題2では、実際に実習授業で使用されていたオノマトペ語彙に対する理解度を「日本語能力別」、「所属の違い」、「語形の違い」、「意味内容の違い」、「音声の違い」に分類しその理解度を調査、分析を行った。その結果、オノマトペは日本語非母語話者にとっては、理解が難しいものではあるが、総合的な日本語力が上がるとオノマトペに対する理解度も向上することが、限定的ではあるが認められた。

課題3では、自由回答欄に記されているコメントから示唆されるオノマトペに対しての意識を探った。また、数名の被験者に対して聞き取り調査も追加的に行った。その結果、オノマトペに対して、「難しい、わからない」といった否定的な意識と、「面白い、勉強したい」といった肯定的な意識が拮抗していることがわかった。

本研究は限られた調査結果であり、ただちにその結果がすべての日本語非母語話者に対し、当てはまるわけではない。しかし、オノマトペに対する日本語非母語話者の理解度や抱えている意識の一端を明らかにすることができた。

7. まとめ

未知のオノマトペに遭遇した際、日本人であれば音のイメージから意味をある程度は推測することができる。また日本語の音のイメージを利用して、新たなオノマトペが生まれている。これからも新しいオノマトペやその表現が誕生し、人々に使用されていくであろう。しかし日本語非母語話者にとって、音のみでオノマトペの意味を推測することは不可能である。滝浦（2015）は、日本語のオノマトペを支える仕組みが、普遍的な音象徴よりはむしろ日本語固有の音象徴であることを説明している。また田守（2002）は、日本語の音象徴には、他の言語と共通する音象徴も含まれているようではあるが、違いも存在していると説明している。また、詳しく解明されていない点が多いとも言及している。

日本語母語話者にとってオノマトペは、素晴らしい描写力があり、わかりやすく表現ができる必要不可欠な語彙である。一方、日本語非母語話者にとってオノマトペは、音象徴の仕組みの違いにより、音を聞いてイメージを膨らますことが出来ない、理解することが難しい語彙であって、決して「わかりやすい」存在ではない。しかし、三上（2002）は、これまでの日本語教育においてオノマトペは正規に扱われることが少なく、積極的に指導しているとはいいがたいと指摘している。その理由として、日本語教育の現場ではオノマトペの重要性が十分に理解されていないことが考えられる。

本研究で得られた結果から、日本語学習者のオノマトペを学びたいというニーズも確認できた。今後日本語教育の現場においては、オノマトペの重要性を認識し積極的にオノマトペを扱う必要があると考える。特に、実技系の領域における専門学校へ進学する留学生に対しては、入学前からオノマトペを指導する必要性があるだろう。

今後も専門学校で学ぶ留学生にとって、学習の手助けになるような現場における調査、研究に取り組んでいきたい。

謝 辞

本稿の執筆にあたり、ご指導をいただきました滝浦真人先生、大橋理枝先生には心より感謝を申し上げます。大変貴重なご助言と励ましをいただきました。岩谷学園アーツティックB横浜美容専門学校、鈴木政信学校長、石崎潤子先生、関根教史先生、日本語科 青木健吾先生、協力してくださった日本語学習者の皆さん、本当にありがとうございました。

文 献

- 生田久美子・北村勝朗（2011）『わざ言語 感覚の共有を通しての「学び」へ』東京：慶應義塾大学出版会
- 上田祐也・清水祐一郎・坂口明・坂本真樹（2013）「オノマトペで表される痛みの可視化」『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』18巻4号, pp. 455-463
- 沖縄タイムス（2018）「一生勉強、三味線づくり県工芸士の渡慶次道政さん伝統的7型の継承に誇り」
<<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/311912>>
- 小野正弘（2009）『オノマトペがあるから日本語は楽しい—擬音語・擬態語の豊かな世界—』東京：平凡社
- 神村初美（2017）「介護のオノマトペは自然習得が可能なのか—EPA候補者へのヒアリングから探る—」『日本語教育方法研究会誌』23巻2号, pp. 46-47
- 神村初美（2019）「介護のオノマトペ学習アプリ「おのまとこ」の開発と試行—痛みのオノマトペを中心に—」『日本語教育方法研究会誌』25巻2号, pp. 128-129
- 神村初美（2019）「モンゴル語・インドネシア語母語話者は痛みのオノマトペをどのように捉えるのか—介護のオノマトペの調査から—」『2019年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp. 178-184
- 国立国語研究所（2011）『東北方言オノマトペ用例集』
<<https://www2.ninjal.ac.jp/past-publications/publication/catalogue/onomatopoeia/>>
- 後藤典子（2015）「医療・介護現場の方言を外国人はどう理解するか—他地域出身日本人と比較して—」『日本語教育』161号, pp. 42-49
- 滝浦真人（2015）「オノマトペと日本語」滝浦・大橋『日本語とコミュニケーション』pp. 183-186, 東京：放送大学教育振興会

- 田村進・石谷桂子・川西正行・早坂正年（2007）「運動指導におけるオノマトペの効果に関する研究—跳び箱運動の開脚跳びの場合—」『広島文教教育』21巻, pp. 1-9
- 田守育啓（2002）『オノマトペ擬音・擬態語をたのしむ』東京：岩波書店
- 塚田真希・吉川政夫（2005）「外国人選手における柔道の動きを表現するスポーツオノマトペ」『日本体育学会予稿集』第56回, pp. 187
- 独立行政法人「日本学生支援機構2019年（令和元年）度外国人留学生在籍状況調査結果」
< <https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaisei/data/2019.html> >
- 西村由美・竹内和広（2011）「目的別日本語教育におけるオノマトペ表現の重要性」『言語処理学会発表論文集』第17回, pp. 1011-1014
- 橋尾直和・川田竜也・隅田久美子・竹崎菜央・多屋千咲・濱田祐可（2020）「災害介護コミュニケーションにおける高知市方言の活用をめざして—オノマトペを中心に—」『高知県立大学文化論叢』8巻, pp. 101-117
- 林部敬吉（2006）「暗黙知とわざ言葉の研究」『日本心理学会大会発表論文集』第70巻
- 浜野祥子（2014）『日本語のオノマトペ—音象徴と構造—』東京：くろしお出版
- 平見風・土井康作（2019）「「わざ言語」から示される和紙製造職人の学びの特徴」『鳥取大学地域学部紀要』15巻2号, pp. 95-106
- 藤野良孝（2008）『スポーツオノマトペ なぜ一流選手は「声」をだすのか』東京：小学館
- 藤野良孝（2017）「ステップ運動で表現されるスポーツオノマトペの一考察」『情報学研究』26巻, pp. 41-45
- 三上京子（2002）「日本語オノマトペ指導に関する研究」『日本語教育方法研究会誌』9巻 2号, pp. 4-5
- 三上京子（2003）「上級教材に見られるオノマトペ—統語的特徴の分析と指導の観点—」『早稲田大学日本語教育研究』2号, pp. 193-209
- 三上京子（2007）「日本語教育のための基本オノマトペの選定とその教材化」『ICU日本語教育学会』3号, pp. 49-63
- 山内裕美子（2017）「生活者としての外国人に対するオノマトペ指導」『学習院大学国語国文学会誌』61号, pp. 82-96
- 吉川政夫（2013）「運動のコツを伝えるスポーツオノマトペ」『バイオメカニズム学会誌』37巻4号, pp. 215-220